

土が開いた現代 革新するやきもの 出品目録

2024(令和6)年4月27日(土)―6月30日(日)

和歌山県立近代美術館

出品作品をおよその展示順に掲載しています。

作者名、作品名、制作年、技法・材質、寸法(縦×横×奥行 cm)を記載しています。

ご注意をお願いします。

- ・展示室では鉛筆を使用してください。
- ・作品にさわらないようご注意ください。
- ・写真撮影は可能ですが、あなたが撮影されたものは、個人として楽しむほかは、著作権法上、権利者に無断では使用できません。著作権者の権利を侵害しないよう注意してください。フラッシュ、三脚、自撮り棒は使用しないでください。また、他の来館者の鑑賞を妨げないようご配慮ください。

1. 前衛陶芸の誕生―1940-50年代

第二次世界大戦後の京都で、やきものに携わる家に生まれた若い世代の作家たちが、陶芸によって前衛的な造形の可能性を追求し始めた。彼らのほとんどが戦後になって初めて、20世紀初頭からの様々な芸術の革新に触れ、生業としての陶器づくりと並行して、同時代の美術としての表現を探求し始めたのである。

1947(昭和22)年に結成された四耕会は、戦前の美術の動向にも造詣が深く、洋画家とも交流のあった宇野三吾(1902-1988)が指導的な立場にあり、前衛華道とも歩調をあわせることで、林康夫らがオブジェ作品の先駆となる表現を生み出した。翌1948(昭和23)年に結成された走泥社は、斬新な器形と絵付けを組み合わせた作品から、1954(昭和29)年の八木一夫作品《ザムザ史の散歩》を契機に、鈴木治、山田光、熊倉順吉らが主導して独自の造形を生み出す作家たちの拠り所となっていく。

林 康夫 HAYASHI Yasuo/1928-

人体 Human Body

1950(昭和25)

陶 46.0×23.0×18.5

作品 Work

1949(昭和24)

テラコッタ 33.0×23.5×21.5 作者寄贈

作品 51-3 Work 51-3

1951(昭和26)

テラコッタ 32×27×49 作者寄贈

作品(弧) Work (Arc)

1955(昭和30)

陶 39.5×34.0×24.3

山田 光 YAMADA Hikaru/1923-2001

作品 Work

1956(昭和31)

陶 31.5×33.5×27.0 作者寄贈

作品 Work

1956(昭和31)

陶 20.2×35.0×22.3

熊倉 順吉 KUMAKURA Junkichi/1920-1985

作品 Work

1956(昭和31)

陶 57.0×51.0×45.0

森野 泰明 MORINO Taimei/1934-

二つの惑星 Two Planets

1958(昭和33) 陶

11.5×27.0×21.0 作者寄贈

鈴木 治 SUZUKI Osamu/1926-2001

土偶 野武士 A Clay Figure: Nobushi, a Bandit

1959(昭和34)

陶 43.0×26.0×18.0

2. 前衛陶芸の展開—1960年代

陶芸という伝統的な技術による新しい造形の探求は、京都市立美術専門学校(現在の京都市立芸術大学)彫刻科教授であった辻晋堂が、八木との交友を持ち、陶による抽象的な作品を試み始めたことも影響し、若い世代にも徐々に広がっていく。立体的な造形でありながら、彫刻とは異なる材料の扱いから発想される造形の可能性が求められていく。

森野 泰明 MORINO Taimei/1934-

WORK 61-2

1961(昭和36)

陶、銅板、木 67.5×6.5×22. 作者寄贈

熊倉 順吉 KUMAKURA Junkichi/1920-1985

作品 Work

1964(昭和39)

陶 49.6×38.5×38.0

柳原 睦夫 YANAGIHARA Mutsuo/1934-

鳩巢 Nest of Doves

1963(昭和38)

陶 61.5×41.0×26.0

山田 光 YAMADA Hikaru/1924-2001

館 Building

1964(昭和39)

陶 32.8×28.0×26.0

川上 力三 KAWAKAMI Rikizo/1935-

雲の記憶 Memory of Clouds

1960(昭和35)

陶 107.0×50.0×48.0 作者寄贈

林 康夫 HAYASHI Yasuo/1928-

作品 66-21 Work 66-21

1966(昭和41)

陶 35.0×35.0×28.5

宮永 理吉(三代・東山)MIYANAGA Rikichi Tozan III
/1935-

寓 Residence

1963(昭和38)

陶 56.0×81.0×26.0 作者寄贈

佐藤 敏 SATO Satoshi/1936-2022

失題 Title Lost

1966(昭和41)

陶 21.0×21.0×23.5 作者寄贈

林 康夫 HAYASHI Yasuo/1928-

[無題] [Untitled]

1963(昭和38)

陶 44.0×20.0×16.0 作者寄贈

森野 泰明 MORINO Taimei/1934-

碑 Monument

1970(昭和45)

陶 32.5×26.5×26.0

3. イメージの拡張: 日常の^{ことわり}理 —1970年代

土という素材は本来どのように造形することもでき、また焼成の方法や釉薬の用い方次第で表面の質感を変え、絵を描くこともできるという自由度の高さを持っている。一方で茶碗や花器などに用いられてきた歴史があり、陶器、磁器という言葉自体が器を含むように、技法と素材が限定的にとらえられがちでもある。踏まえるべき伝統と考えるにせよ、打ち破るべき因習ととらえるにせよ、作家はそれぞれ独自の表現を求め、特色のある作風の確立をめざしていく。人や物の具体的な姿を写し、日常性に寄り添いながら、かたちの原理をとらえようとする表現を現代陶芸の一つの特色として見出すことができるのではないだろうか。

宮下 善爾 MIYASHITA Zenji/1939-2012

胎座 Placenta

1970(昭和45)

陶 50.5×42.0×31.0 宮下英子氏寄贈

宮永 理吉(三代・東山)MIYANAGA Rikichi Tozan III
/1935-

4つの円筒 Four Cylinders

1970(昭和45)

陶 29.0×34.0×27.0 作者寄贈

林 秀行 HAYASHI Hideyuki/1937-2024

作品 Work

1969(昭和44)

陶 28.0×51.0×5.5 作者寄贈

作品 Work

1972(昭和47)

磁 31.0×19.5×23.5

美容体操 Calisthenics

1973(昭和48)

磁 31.0×20.5×11.9

あいさつ Greetings

1976(昭和51)

磁 41.0×11.5×19.0

荒木 高子 ARAKI Takako/1921-2004

無精卵 Unfertilized Egg

1973(昭和48)

茶陶 38.0×48.0×36.0

無精卵 Unfertilized Egg

1975(昭和50)

陶 48.0×57.0×46.0

熊倉 順吉 KUMAKURA Junkichi/1920-1985

秘められた欲望 Concealed Desire

1972(昭和47)

陶 54.7×34.0×16.5

八木 一夫 YAGI Kazuo/1918-1979

奇偶 Odd-Even

1973(昭和48)

黒陶 34.4×28.0×21.2

佐藤 敏 SATO Satoshi/1936-2022

唐草マン Man with Arabesque

1973(昭和48)

陶 44.0×26.5×30.0 作者寄贈

林 康夫 HAYASHI Yasuo/1928-

Face

1973(昭和48)

陶 40.0×38.5×26.0 作者寄贈

肖像 又は ゲート Portrait of Gate

1974(昭和49)

陶 46.0×27.0×30.0

昼下り Afternoon

1977(昭和52)

陶 24×50.5×43.5 作者寄贈

三島 喜美代 MISHIMA Kimiyo/1932-

パッケージ Package

1974(昭和49)

シルクスクリーン、陶 26.0×36.5×27.0大/

13.5×23.0×22.0中/9.5×12.5×14.5小

パッケージ Package

1974(昭和49)

シルクスクリーン、陶 14.0×35.0×27.0

パッケージ Package
1975(昭和50)
シルクスクリーン、陶 49.0×22.0×17.0 作者寄贈

川上 カ三 KAWAKAMI Rikizo/1935-
作品 Wok
1974(昭和49)
陶 38.3×20.0×20.0

柳原 睦夫 YANAGIHARA Mutsuo/1934-
褐釉金彩花瓶 カリフォルニアシャワー Brown and
Gold-glazed Vase: California Shower
1975(昭和50)
陶 38.4×56.8×22.7

山田 光 YAMADA Hikaru/1924-2001
消えゆく壺 Vanishing Pots
1976(昭和51)
陶 42.8×34.5×17.5

陶面の中の数字 Figures in the Ceramic Plane
1976(昭和51)
陶 53.5×34.0×7.0

八木 一夫 YAGI Kazuo/1918-1979
陰気な曆 Gloomy Calendar
1977(昭和52)
黒陶 30.4×30.6×7.8

4. 土の可能性への挑戦—1980年代

陶による表現を行いながら、造形されたものを通して土とは何か、焼くとはどういうことかという問いかけは、常にどの作家の中にもあるように思われる。それは時に造形の限界を試みる形で現れ、やきものとは思えない造形や、逆に割れるということを陶の本質ととらえて割れた状態を見せる作品もあらわれる。

星野 暁 HOSINO Satoru/1945-
表層・深層 Surface / Deep Layers
1979(昭和54)
黒陶 17.0×135.0×47.0
表層・深層 Surface / Deep Layers
1979(昭和54)
黒陶 17.0×135.0×47.0 作者寄贈

宮下 善爾 MIYASHITA Zenji/1939-2012
無題 Untitled
1980(昭和55)
陶 55.5×13.0×14.0 / 51.5×13.0×14.0
宮下英子氏寄贈

林 康夫 HAYASHI Yasuo/1928-
[無題] [Untitled]
1980(昭和55)
陶 34.0×27.0×15.0 作者寄贈

柳原 睦夫 YANAGIHARA Mutsuo/1934-
風の十字路 Crossroads of Wind
1979(昭和54)頃
陶 32.0×33.5×28.0

佐藤 敏 SATO Satoshi/1936-2022
レッド・ゾーンB Red Zone B
1979(昭和54)
陶 51.5×81.0×11.0
Gメン G-men
1982(昭和57)
陶、金属 38.0×34.5×25.5 作者寄贈
失題 Title Lost
1982(昭和57)頃
陶、金属 27.5×20.0×25.5 作者寄贈
顔 Face
1983(昭和58)
陶、金属 56.5×52.0×16.3

林 秀行 HAYASHI Hideyuki/1937-2024

鳥のシリーズ-二度めの恋

Bird Series: Love of Second Time

1983(昭和58)

黒陶 59.3×42.1×14.3

山田 光 YAMADA Hikaru/1924-2001

黒陶 Screen of Black Pottery

1982(昭和57)

陶 56.6×28.5×9.0

窓 Window

1983(昭和58)

陶 50.0×46.5×12.0

荒木 高子 ARAKI Takako/1921-2004

頹廢の聖書 Decadent Bible

1983(昭和58)

シルクスクリーン、磁土 14.5×22.3×20.3

砂の聖書 Sand Bible

1983(昭和58) シルクスクリーン、シャモット、砂

18.0×64.0×46.0

川上 カ三 KAWAKAMI Rikizo/1935-

座考シリーズ-空中楼閣- Thought about Seat

Series-A Castle in the Air

1983(昭和58)

陶 60.0×50.0×57.5

宮永 理吉(三代・東山)MIYANAGA Rikichi Tozan III

/1935-

同行の二人 Two Pilgrims Walking Along

1984(昭和59)

陶 41.6×32.0×10.6

林 康夫 HAYASHI Yasuo/1928-

Focus VI-B

1984(昭和59)

陶 34.5×38.5×38.5

Work(角) Work; Angle

1986(昭和61)

陶 27.5×64.5×64.0

作者寄贈

金子 潤 KANEKO Jun/1942-

DANGO Untitled (DANGO)

1985(昭和60)

陶 57.0×72.0×53.0

熊倉 順吉 KUMAKURA Junkichi/1920-1985

ミュージシャン Musician

1984(昭和59)

陶 42.0×23.0×10.5

作品 Work

1984(昭和59)

陶 37.0×40.0×22.0

ブラックミュージックBlack Music

1984(昭和59)

陶 41.5×25.0×13.0

鈴木 治 SUZUKI Osamu/1926-2001

馬 Horse

1984(昭和59)

陶 74.6×48.9×23.0

太陽のシグナル Signal of the Sun

1984(昭和59)

陶 61.5×51.0×17.0

森野 泰明 MORINO Taimei/1934-

WORK 86-14

1986(昭和61)

陶 92.2×89.3×6.8

秋山 陽 AKIYAMA You/1953-

主のない領域 Zone without Masters

1986(昭和61)

黒陶、鉄 66.0×150.0×100.0

5. 装飾の再定義—1980年代後半から

1980年代は、美術全般にわたって多様な素材と具体的なイメージが多く用いられるようになった、にぎやかな時代だった。陶による表現もその一翼を担ったことは間違いない。金属的な質感を持つ表面や、鮮やかな色彩を用いた作品、そして作品の巨大化への挑戦など、装飾的な要素を積極的に表現に生かすことが試みられている。

笹山 忠保 SASAYAMA Tadayasu/1939-

かたやね Shed Roof

1986(昭和61)

陶 63.0×40.3×22.0

作者寄贈

柳原 睦夫 YANAGIHARA Mutsuo/1934-

雲気紋笑口壺 Smiling Pot with Cloud Pattern

1986(昭和61)

陶 51.0×47.0×25.5

川上 力三 KAWAKAMI Rikizo/1935-

遍路者 Pilgrim

1988(昭和63)

陶 52.0×38.0×39.5

宮永 理吉(三代・東山)MIYANAGA Rikichi Tozan III
/1935-

天竺から From Ancient India

1987(昭和62)

磁 34.5×20.0×17.5

台密の屋根 Ceiling of the Tendai Sect Temple

1987(昭和62)

陶 26.0×37.0×17.0

作者寄贈

清水 証博(八代・六兵衛) KIYOMIZU Masahiro

Rokubei VIII/1954-

WORK 87-A

1987(昭和62)

陶 29.0×135.0×156.0

宮下 善爾 MIYASHITA Zenji/1939-2012

存在の意味 Meanings of the Presence

1986(昭和61)

陶 40.0×64.0×32.5

宮下英子氏寄贈

牡丹(元禄) Peony (Genroku era)

1990(平成2)

陶 23.5×48.0×48.0

宮下英子氏寄贈

牡丹(現代) Peony (Nowadays)

1990(平成2)

陶 39.5×45.5×45.5

宮下英子氏寄贈

通過する風 Passing Wind

1994(平成6)

陶 47.5×50.0×19.0

宮下英子氏寄贈

坪井 明日香 TSUBOI Asuka/1932-2022

唐織追想 Reminiscence of Karaori

1990(平成2)

陶 63.0×44.0×34.0

中村 錦平 NAKAMURA Kinpei/1935-

土瓶メタモルフォーゼ 1・2・3

Metamorphose of Clay Pot 1

1988(昭和63)

陶 14.0×33.0×15.0/20.0×19.6×12.0/

29.3×28.5×14.7

井上 雅之 INOUE Masayuki/1957-

T-9216

1992(平成4)

陶 216.0×246.0×179.0

中村 康平 NAKAMURA Kouhei/1949-

Resurrection

1991(平成3)

陶 55.0×52.5×40.0

6. 素材への問い—1990年代以降

陶による造形の探求は、手探りで始まった1940年代以降、既に70年以上の時を経て、一つの歴史を形づくっていると言って良いだろう。しかし、個々の作家の制作は、歴史に立脚しながらも独自のものとして行われている。多くの作家が大学で教鞭を取り、後進を育てたことで、土と焼成に関わる普遍的な問いが引き継がれながら、新たな様相で作品として現れているのである。

西村 陽平 NISHIMURA Yohei/1947- 百科事典につぶされた松本清張 Matsumoto Seicho Crushed by Encyclopedia 1990(平成2) 紙 14.0×30.0×20.0	林 康夫 HAYASHI Yasuo/1928- Appear Brown 1992(平成4) 陶 33.0×33.0×35.0 作者寄贈 [無題] [Untitled] 1993(平成5) 陶 33.0×40.0×29.0 作者寄贈 [無題] [Untitled] 1998(平成10) 陶 31.0×38.0×28.0 作者寄贈 寓舎「祭事—1」 Temporary Residence "Festival-1" 2005(平成17) 陶 28.0×25.0×20.0 作者寄贈 寓舎「白のスペース」 Temporary Residence "White Space" 2008(平成20) 陶 32.5×15.0×14.0 作者寄贈 寓舎「記憶の表裏」 Temporary Residence "Both Sides of Memories" 2014(平成26) 陶 35.0×29.0×12.5 作者寄贈 [無題] [Untitled] 2018(平成30) 陶 25.0×22.5×16.0 作者寄贈
西田 潤 NISHIDA Jun/1977-2005 No.3-A 絶 Zetsu (Cut off) 3-A 2001(平成13) 磁土、釉薬 74.0×74.0×66.0 田中恒子氏寄贈	山野 千里 YAMANO Chisato/1977- ファミリーバックパッカー Family Backpacker 2008(平成20) 陶 5.0×3.8×4.5 田中恒子氏寄贈 ヒョウモントカゲモドキダンス Dance on the Leopard Gecko 2008(平成20) 陶 4.5×12.0×6.5 田中恒子氏寄贈
長谷川 直人 HASEGAWA Naoto/1958- plant 1994(平成6) 陶、金属 45.0×17.0×14.0 田中恒子氏寄贈 plant 1994(平成6) 陶、金属 36.0×19.0×33.5 田中恒子氏寄贈 ただそこにあるもの What is there 2000(平成12) 陶、金属 20.0×9.0×13.0 田中恒子氏寄贈	
堀 香子 HORI Kyoko/1963- Rooms for Water 1996(平成8) 陶 20.0×28.0×19.0 田中恒子氏寄贈 あまねく その指で Universally, With the Fingers 2011(平成23) 陶 33.0×34.0×36.0 田中恒子氏寄贈	
秋山 陽 AKIYAMA You/1953- META-VOID 2004(平成16) 陶 130.0×125.0×136.0 寄贈	

ひそひそ話 Whispered Conversation
 2008(平成20)
 陶 3.0×3.0×1.5虎上老人／3.5×4.0×3.0若者
 田中恒子氏寄贈

バランスマトリョーシカ Balance Matryoshka
 2008(平成20)
 陶 6.5×6.0×3.5人物／8.5×8.0×1.5布団
 田中恒子氏寄贈

足もそれなりに力 入れてくれませんか? Would you
 please strain your legs some more?
 2008(平成20)
 陶 5.5×3.0×3.0 田中恒子氏寄贈

ゾウガメの穴 Hole on the Giant Tortoise
 2008(平成20)
 陶 6.5×5.5×4.0 田中恒子氏寄贈

アカジンカヤック(黄) Akajin-Kayak (Yellow)
 2008(平成20)
 陶 6.5×11.5×7.5 田中恒子氏寄贈

ヒラメサーファー Flatfish Surfer
 2008(平成20)
 陶 4.0×9.0×4.5 田中恒子氏寄贈

アカジンカヤック(ピンク) Akajin-Kayak (Pink)
 2008(平成20)
 陶 7.0×11.0×5.5 田中恒子氏寄贈

岩村 遠 IWAMURA En／1988-
 お家 Home
 2013(平成25)
 陶 12.0×11.0×12.0／19.0×14.0×17.0／
 19.0×18.0×12.0／11.0×19.0×15.0／
 11.0×13.0×16.0 田中恒子氏寄贈

南野 馨 MINAMINO Kaoru／1966-
 untitled 1402
 2014(平成26)
 陶 146.0×152.0×152.0 個人蔵

7. おわりに

この展覧会では、当館の収蔵作品により、関西を中心とした現代の陶芸による表現の、過去70年に及ぶ展開を概観した。収蔵作品も全てを展示したわけではなく、別の視点もありうることだろう。また、未だ収蔵に至らず紹介できなかった作家も多い。更に、国内はもとより海外でも様々な動向があったことは今後の紹介を期したい。